



MG-LAC

2022 年度活動報告



愛のある知性を。
宮城学院女子大学

MG-LAC

(宮城学院女子大学リエゾン・アクション・センター)

地域と連携し、学生の自主活動をサポートします。

宮城学院女子大学は、地域社会と連携し、学生の自主的・実践的な学び、社会貢献の場を提供しています。LAC (リエゾン・アクション・センター) の「Liaison」(リエゾン、連携) という言葉には、学生が教職員と、大学と地域がつながり、協働して活動を創っていくという願いが込められています。学生は大学での学びをいかし、自主企画活動やボランティア活動など、多彩な活動を展開しています。宮城学院女子大学の学生による自主活動への取り組みは、「大学基準協会」から最高ランクのS判定をいただいています。

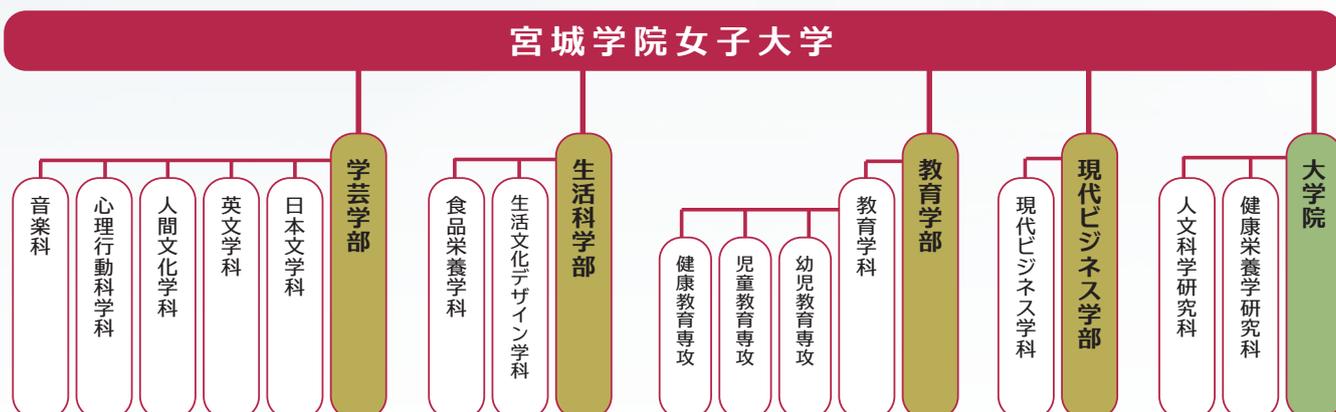
MG-LAC (リエゾン・アクション・センター)

MG-LAC は、大学での学びを生かした学生のプロジェクト型自主活動を支援します。



プロジェクト型自主活動……学生たちが授業やサークル以外で「やりたいこと」に主体的に取り組む活動です。社会人としての基礎力も養います。

宮城学院女子大学 2 研究科 / 4 学部 9 学科



学内ボランティアクラブ

3つの国際奉仕団体、学生組織を擁しています。

現在、宮城学院女子大学には3つの国際奉仕団体の学生組織があります。知見を広げ、社会で責任を果たし活躍する女性となるべく、活動しています。

宮城学院女子大学 ゴールデンZクラブ

女性の地位の向上を目指す世界的な奉仕団体であるゾンタクラブの大学支部として2015年に発足しました。宮城県の魅力や被災地で活躍する女性について取材し、日本語と英語で世界に発信する活動など、女性の自立支援につながる活動を行っています。

<https://mgugoldenz.wixsite.com/mgugoldenzclub>

 mgugoldenz



宮城学院女子大学 さくらレオクラブ

2017年8月に発足。国際的な社会奉仕団体ライオンズクラブの大学支部として、奉仕活動を通してリーダーシップ等を育成するプログラムを行っています。「咲かせよう 奉仕の心」をスローガンに、様々な奉仕活動に取り組んでいます。

 sakura_leoclub  mgu_sakura  @928uostr



サークルK 宮城学院女子大学

子どもたちのための奉仕団体である国際組織キワニスクラブの国内4番目の学生支部として2018年2月に認証。子ども食堂、水の森児童館での学習支援など主に子ども支援の分野で活動しています。

 circlek_mgu



学生が自主的に企画・運営するプロジェクト活動

たんぼぼ

蒲公英倶楽部

学校資料の調査や保全作業を実施し、展示会を開催します。

代表 ■ 宮内 晴菜 学芸学部 人間文化学科 3年

今年度は宮城県の北から南まで、様々な小学校へ顧問の大平先生と一緒に足を運びました。学校によって日誌の書き方や記載内容が異なっており、その面白さを感じながら楽しく作業をすることができました。私個人としては、小学校の先生方や地元の方々に喜んでいただけたことが一番のやりがいを感じた瞬間でした。展示会終了後に見せてくださった笑顔はたいへん印象に残っています。ご縁を持つことができた小学校の多くは今年度で閉校してしまう学校でしたが、資料調査や保全活動、展示会を通してできたご縁をまたどこかで思い出していただけたら、私たちの活動がさらに意味を成すものになるのではないかと感じました。



桜ヶ丘 古文書プロジェクト

「守る、伝える、地域の歴史」をモットーに古文書を中心とした地域文化財の保全活動や勉強会を行います。

代表 ■ 佐藤しずく 学芸学部 人間文化学科 4年

思うように活動できなかった昨年度とは変わって、今年度は学外へ活動の幅を広げることができました。8月には登米市の津島神社で地域の方々と古文書資料の撮影を行ったり、東北大では宮城資料保全ネットワークの方々と実践的な保全活動について学んだりすることができました。専門的な作業にも活動の中で体験することができ、歴史を学んでいる身として大変良い刺激を受けました。私たちが普段歴史資料に触れる時には大抵、活字になっているかきれいな状態で展示されているのを見るかだと思います。しかし、実際は十分な保全がなされないままになっているものが多くあります。その裏側を支えている方々の働きを知ることができ、この活動が関わっていることはとても大切なことなのだ改めて実感できました。



小さな図書館プロジェクト

気軽に本を手にとる機会を提供するため、学内に本棚を設置し貸出・購入・寄付などの運営をしています。

代表 ■ 伊東 優希 学芸学部 日本文学科 3年

今年度は一年間の中で様々な試みを行うことができました。本棚のレイアウトの変更、複合商業施設ランチとの連携の提案、また本棚の装飾品の買い出し等も積極的に1・2年生に参加を呼びかけ、学内活動の醍醐味でもある先輩後輩の縦の繋がりとというものも意識できたと思います。その一方で活動のベースである本棚の管理についても、毎年学年ごとに担当を交替し、月に一回以上ミーティングを行い近況を報告しながらレイアウトをしました。企画を考え、提案し、それを快く賛成してくれるメンバーたちがいたことは、恵まれていたと思います。代表として失敗したこと・成功したことどちらも印象がありますが、この一年を終えて後輩にプロジェクトを引き継げたことに安心しています。自身これから活かしたい経験の場となりました。

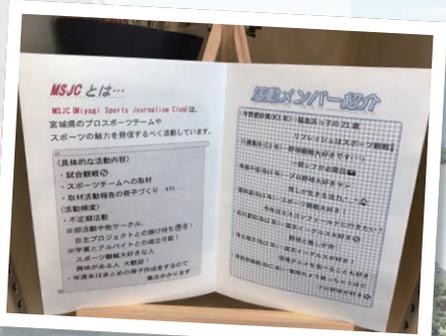


MSJC

宮城県のプロスポーツチームを取材し、その魅力を発信します。

代表 ■ 今野 愛紗美 教育学科 健康教育専攻 3年

今年度始めてメンバーと顔合わせをして、各々スポーツが好きで魅力を感じていて、情報を発信したいということでMSJCに入部してくれたことを改めて感じました。話し合いでも、取材で聞いてみたい、知りたい内容もたくさん挙げてくれました。ただ、取材に重きを置いてしまうとなかなか活動を進められない状況になってしまうことを実感したので、MSJC活動当初の背景にもあるように「好きを好きで終わらせたくない」という想いを大事にして、まずは各メンバーの感じているスポーツの魅力「好き」の部分をSNSで手軽に発信できればと感じました。今後はメンバーで何度も話し合いを重ね、これまでの活動に囚われず、柔軟に活動方針を考えていけたらと思います。



国際支援活動 Triangle チーム STUDY FOR TWO

中古教科書の回収・販売により得られた利益を、途上国の子どもたちへの教育支援事業に寄付します。

代表 ■ 花田 遥菜 学芸学部 英文学科 2年

今年度は、今まで行っていた活動やイベントを全て対面で実施することができ、やっとコロナ禍から抜け出すことができたなど実感が湧きました。教科書の販売・回収イベントだけでなく、大学祭にも出展することができ、多くの方に私たちの活動や国際支援に興味を持っていただき、参加してもらう機会をたくさん作ることができました。それだけではなく、メンバー同士の交流も増え、STUDY FOR TWOの全国春合宿にも3年振りに参加し他大学の学生とも交流する予定です。こんなに多くの人との関わりは、大学に入ってから初めての経験だったので、1年を通してとても楽しく活動することができました。来年度は、「学生」と「貧困により勉強ができない途上国の子どもたち」のwin-winの関係をより深いものにしていきたいです。



国際支援活動 Triangle チーム TABLE FOR TWO

先進国と途上国の食の不均衡をなくすために、学生にも取り組みやすいサポートプログラムに参加します。

代表 ■ 千葉 望央 学芸学部 英文学科 2年

今年度は学食でのTFTフェアを1回しか行えませんでした。宮城大学のTFTとのコラボ企画で「かき揚げのライスバーガー」と「豆腐ハンバーグのハンバーガー」を二日間にわけて販売し160食売り上げることができました。この活動では1食につき20円を寄付できます。TFTフェアのメニューの考案や試作には手間がかかりますが、たくさん売り上げて多くの寄付金を送ることができると、やりがいも感じられます。また、メニューを考える中で料理は食材を作ってくれる人や調理をしてくれる人などの努力があって、私たちの食卓に届けられているのだと感じることができました。来年度はTFTフェアの開催頻度を増やし、さまざまなヘルシーメニューをみなさんに提供するとともに、開発途上国の子どもたちへの寄付に繋がりたいと思います。



国際支援活動 Triangle チーム Plan

書き損じはがき・未使用はがきの回収により得た利益での国際支援、学内での講演会の実施、勉強会を開催します。

代表 ■ 佐藤 未来 学芸学部 英文学科 3年

今年度行った活動として、ハガキ回収は学内にBOXを通年で設置し学生や教職員の皆さんがいつでも寄付をできるようにしました。映画鑑賞会は年2回の実施を目標としていましたが、1回の実施となったため来年度はより多く実施できたらと思います。プランインターナショナルジャパンから講師の方をお呼びして行う講演会は、例年通り人間文化学会と共同開催となりました。途上国の現状と具体的な国際支援を知るきっかけとなれたことを嬉しく思います。さらに多くの方に国際支援に興味を持ってもらえるよう、新設した開設したInstagramも工夫して利用していきたいと思いました。今年度もTriangleチームPlanに多くの方からのたくさんのお力添えをいただき、ありがとうございました。



石巻市立大原小学校子ども支援ボランティア

被災地域の石巻市立大原小学校にて、日常の学習支援やイベント開催などのボランティア活動を行います。

代表 ■ 今野 福美 教育学科 児童教育専攻 3年

今年度は「子ども達が進んで成長できるような関わり方を考え学生ひとりひとりができることから実行する」という目標を掲げ、活動を行いました。子どもが成長できるような関わり方について、一度の活動で子どもが成長したかどうか判断することは難しいと感じたので、今後も継続的に活動を行い子どもを見守ることが必要だと思っています。また、日常支援等、このボランティア活動に参加するメンバーに偏りがみられたため、来年度以降は遠方の小学校を訪れて活動することが難しい場合でも参加できるような、オンライン等でも交流できるような活動を考えていければと思います。今年度は悔いが残る活動となりましたが、この反省を生かし来年度の活動につなげていきたいです。



MGPR

オープンキャンパスでキャンパスツアーの実施など、大学の広報と連携し宮城学院をPRしています。

代表 ■ 益田 南渚 教育学科 児童教育専攻 3年

MGPRの活動を通して、広報という仕事にとってもやりがいを感じられました。活動当初は、オープンキャンパスのツアー企画が殆どでしたが、大学のイメージ動画の撮影に参加したり、新しいオープンキャンパスの形を作ろうと外部の方とも協力したり、遠方の高校生のためにキャンパスツアー動画を作成したりと、大学生活でこの活動でしかできないような貴重な経験をさせてもらいました。そして、そのような活動の中で、企画力や協調性を高め、リーダーシップをとってメンバーをまとめ、チームで活動を行うことが出来ました。今後ともMGPRの活動を通して、高校生やその保護者の方に宮城学院の良さを知ってもらい、宮城学院が高校生の進路選択の1つになれるよう、活動を充実させていきたいです。



てとてプロジェクト

郷土料理教室を開催し、世代を超えた地域でのコミュニティ作りの場を提供します。

代表 ■ 門間 由芽奈 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 3年

「地域のつながりの輪を広げる」ことを目的に、イベントを通じて人々が繋がるきっかけづくりを行っているプロジェクトです。2022年夏に発足し現代ビジネス学部と食品栄養学部の3年生5人で各々の学部での学びを活かしながら楽しく活動しています。今年度は、ランチ仙台まちスポでのハロウィンクッキング、若林区の集合住宅での郷土料理教室、料理教室開催に伴う試作、メニュー考案、プロモーション検討、外部支援金活動報告会への参加等の活動を行いました。発足してでやることほとんどが初挑戦でしたが、人前で話す力や相手の立場で考える力など日々成長を実感しています。教室に参加して下さった地域の人から頂いた「楽しかった!また開催してください!」の声は私達の活動の原動力になっています。来年度も皆様のご協力を頂きながら、活動に励みます。



小百合園幼児ボランティア

児童養護施設 小百合園で日常支援や読み聞かせを行います。

代表 ■ 佐々木 萌花 教育学科 幼児教育専攻 3年

ボランティアを通して、普段なかなか関わることのない年齢の子どもたちと関わることで、楽しく活動することができました。一方で、年齢に合わせた難易度で遊びを考えるのが難しいと感じました。ボランティア活動では、学生2人で4人の子どもたちと一緒に遊びましたが、元気一杯の子どもたちを上手にまとめるのが難しかったです。また、事前に考えた遊びは子どもたちに少し難しかったようで飽きてしまうこともありました。様子を見ながら遊びを変更したり発展させたり、子どもたちがやりたいと思う遊びを行うことが必要だと感じました。子どもたちが遊びに夢中になっていて、怪我をすることがないように環境構成を考えて遊ぶなど、楽しく遊びながら安全面に考慮し、声をかけながら遊びを展開することも大切だと学びました。



Food and Smile!

県内外での防災料理教室の開催や、SNSを通してレシピを広く公開しています。

代表 ■ 柿崎 瑞稀 生活科学部 食品栄養学科 2年

今年度は幅広い年代の方々と関わることができました。みんなのついでで連坊に出向いたときには幼い子どもたちと関わるのができ、できあがった後においしかったと言ってもらえてとても嬉しかったです。また、授業では学べない家庭料理の知識や災害時の食事について学ぶことができました。東六郷 東部かあちゃん'ずさんに東日本大震災の被害状況や当時のライフラインについてお話を伺いました。防災レシピをまとめたカレンダーの作成で、レシピを作ったり防災知識を書いたりするときに、そのお話がとても役に立ちました。レシピコンテストでは参加したメンバー達が熱心に取り組むことができました。レシピを作ることは将来管理栄養士として働くうえで必要であるため勉強になりました。



ボランティア活動報告

● どんなボランティア活動に参加しましたか？

- NPO 団体が主催する日常支援ボランティア
- 定禅寺ストリートジャズフェスティバル
- ヴォスクオーレ仙台子ども食堂ボランティア
- 東北楽天イーグルス野球教室
- 児童館での日常支援ボランティア
- 石巻復興の森植樹祭 など



● ボランティア活動に参加してみて

- ボランティア中に他大学の学生と友達になることができ楽しく取り組みました。他にもイベントの主催者・ボランティア関係者など色々な立場の方とコミュニケーションをとれる良い機会になりました。(現代ビジネス学科 2 年)
- 参加する前までは不安でしたが「ありがとう」とたくさんの方から言っていたきやりがいを感じることができました。(教育学科 3 年)

高橋 麗蘭 教育学科 幼児教育専攻 2年

将来は、教育の仕事に携わることを目標に、1年生の頃から子どもと関わる様々なボランティア活動に挑戦している高橋 麗蘭さんへインタビューをしました。



Q：ボランティア活動を頑張りたいと思ったきっかけを教えてください。

大学入学後、一人暮らしを始めた私は人と交流したいという気持ちがより高まっており、新しいところに飛び込んでみたいという気持ちや好奇心があったため、とりあえず 1 回参加してみようと思ってボランティアに応募しました。

Q：活動を通してやりがいを感じたことはありますか？

どのボランティアに参加していても共通して「ありがとう」と言われた時やだれかの笑顔を見たりすると心がとても温かくなりやりがいを感じます。例え、関わった人の顔を思い出せなくてもその時に感じた温かさは活動後の今でもずっと残っています。

Q：継続して活動をする中で力がついたことはありますか？

特に、行動力が向上したと感じています。以前は「上手いかなかったらどうしよう」「一人では不安だな」とネガティブな感情が出てくると積極的に行動できませんでしたが、今は、自分の前向きな気持ちを大切にしながら行動することができるようになってきました。

Q：これからボランティア活動を始め方へ何かメッセージがあればお願いします。

ボランティア活動は人の役に立つことはもちろん、自分の人間性を成長させることができる第一歩になることと思います。私自身、後悔した活動は何もありません。皆さんの活動で支えられる人が一人でも増えることを祈っています。

◆ボランティア・各プロジェクトについてのお問合せは MG-LAC までご連絡ください。

宮城学院女子大学リエゾン・アクション・センター (MG-LAC)

〒 981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1

TEL: 022-279-1340 FAX: 022-279-5876 E-mail: lacvolu@mgu.ac.jp